

令和5年度 普及指導活動外部評価委員会（開催日：令和6年2月2日）  
「評価委員からの意見」及び「次年度の活動について」

島根県農林水産部農業経営課



課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制■方法	普及指導活動の成果	その他	
大田市における GAP の推進 (大田農業部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県基本計画の水田園芸の推進、新規自営就農者の確保に沿った課題設定になっている。</li> <li>■ 産地課題の分析が的確で、将来を見据えた普及活動課題が設定されている。</li> <li>■ 関係機関との密接な連携の下、多様な活動が取り組まれ、明確な目標が設定されている。</li> <li>■ 島根県の GAP 認証制度である「美味しまねゴールド」の団体認証取得のメリットを地域の生産者にアピールし、団体取得の拡大に着目したこと。</li> <li>■ まず GAP 認証を目標としてスタート。それを達成してから課題をあぶり出しよりよい形にしているために PDCA を回されている点は良いと感じました。</li> <li>■ 農産物を差別化するための取組ではなく、だれもが農業を行ううえで守るべき規範に着目した視点は、農業者にとっても、いきなり、農産物の差別化などを目標にするよりも、実践しやすいと思います。また、個人で認証をとるのではなく、団体でとることで、認証までのコスト(非金銭的成本含む)の節減にもつながる良い取組みだと言えます。</li> <li>■ JA と一体化した取組みで、現実的なものとなっている。新たに取り組もうとする者の、手本となるのではと感じた。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実態調査、聞き取り調査から三つの課題点を把握、4つの取り組み支援で行った活動は効果的だ。</li> <li>■ 各団体の担当者との綿密な連携、役割分担が伺える。</li> <li>■ 認証取得者に対し、GAP に取り組む意義を再確認してもらうための GAP 研修会の企画開催とアンケート調査の実施。</li> <li>■ 課題を改善するための 4 つの取組みは参考になった。特にマニュアルの統一化、内部監査の省力化は無駄を排除して効率化を求めていく点は人手不足の中とても良い内容だと思う。</li> <li>■ GAP の団体認証に取り組むことで直面する 3 つの問題点が明確であり、迅速に対応していることは評価に値すると思います。</li> <li>■ 計画的に研修会や内部監査などを実施されている。</li> <li>■ 令和 2 年から毎年団体取得を生産団体ごとに取得していて、JA 事務局も県職員とも、生産者との繋がりができ、分からないことや、改善点等聞きやすい環境が構築されて良い。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 抽出した三つの課題解決が前進したと理解できる。</li> <li>■ 団体認証新規取得 3 件(が評価できる)。</li> <li>■ 取得者アンケートで美味しまね認証の満足度が概ね高く好意的な意見が多いこと。</li> <li>■ 取組をさらに広げたいとの意見(だったことが評価できる)。</li> <li>■ 高校生への普及活動は良いことだと感じました。学生に地元にはこんな認証制度があることを認知してもらうことはプラスになると思います。</li> <li>■ 本事例は、他地域からも視察が来ているとのことで、多くの地域のモデル的な取組みとなっていることがわかります。</li> <li>■ GAP 維持に毎年 1 戸当たり 2.5 時間(の時間的コストが)掛かることへのアプローチ。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今回の活動により GAP の認識が深まり、資質向上が図られたと伺えた。</li> <li>■ 事務局運営の効率化にも着目した点。</li> <li>■ 普及指導活動をして分かった課題の分析と今後の取組についてその内容が明確。</li> <li>■ 研修会を多く実施されている点は良いと思います。今後 PDCA を回していくとこでより問題点が改善され効率的になると感じました。</li> <li>■ GAP そのものに関する認知度を向上させる取組みに、創意工夫がなされており、特に若い世代の高校生に認知してもらうための取組みは、素晴らしいと思います。</li> <li>■ 細かく分析され、普及意欲を感じた。</li> <li>■ 発表(プロモーション)の巧さを感じます。</li> </ul>	

	<p>■安心安全な生産物を提供するために必要な GAP の取得に向け、個人より団体での認証がより取り組みやすい。生産者同士の結束も強くなる。</p> <p>■農家の経営改善に資する、また、事務局負担の軽減に貢献する取り組みとして、県域への波及を期待します。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■GAP 認証制度について、消費者にとっても知識としても知ること大切だと思うので、生産者だけでなく、消費者に向けてのPRをもっと企画してほしい。</p> <p>■GAP の団体認証を推進し普及した後の、次のステップも示すことができると良いと思います。</p> <p>■明快な目標設定が成されていないように思えます。</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>■組織体制、プロジェクトチーム編成、人員など、組織的体制の説明が分かりにくかった</p> <p>■認証認知度を 2 か所で実施されているがもっと実施されても良いと思う。</p> <p>■JA との連携の図が、スライド 10 に示されていますが、連携の内容が情報共有・研修会の開催・アドバイス等といった内容が簡単に示されています。研修会の写真も示されていますが、連携の内容がわかりにくく、もう少し組織構造や連携内容・方法が具体的に示されると良かったと思います。</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>■成果の数量的な達成度が見えない。</p> <p>■事務局運営の効率化の更なる研鑽が必要。</p> <p>■この GAP 団体認証をとることの効果、例えば販路についてどのような影響があったかが示されると良いと思います。</p> <p>■構成員のフォローをすることによって、問題 1 (GAP の目的意識の薄れ、知識の不足によるモチベーションの低下) がどのように改善されたのか、モチベーションがどの程度向上したのか、が示されると良いのではと思います。</p> <p>■アンケートを年齢別にまとめてみるのはいかがでしょうか。</p> <p>■やはり販売高(農業収入)の UP が、目に見える形で成果に現れないと、モチベーションの維持向上に繋がらないので、販促現場へのアプローチも検討願います。</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>■消費者に向けての GAP の PR 発信がもっと必要かもしれない。</p> <p>■単に、通常の「GAP」ではなく、「美味しまね認証」とあえて表現を変えています。しまね独自の認証に関して、他との相違点など、わかりやすく示されると良いと思います。</p>	<p>○GAP の取り組みは、産地が継続的に発展していくためには重要なツールであると考え。今後も関係機関が一体となって、より効率的な事務局運営を模索しながら、持続可能な団体認証となるように支援する。</p> <p>○普及活動の中で得た効率的な事務局運営のノウハウを積極的に情報発信することで、他品目や他産地への波及を図る。</p> <p>○産地支援課販路開拓室と連携し、美味しまね認証をきっかけとした新たな販路の開拓を目指すとともに、管内のサポーター企業と連携した販売会を定期的に開催することで、消費者の美味しまね認証の認知度向上を図る。</p> <p>○今後も研修会を企画し、生産者の知識向</p>
--	--	---	---	---	--

	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■事務局負担の●削減といった目標があるとわかりやすい。</li> <li>■改善後の実態調査で削減状況を数値化することで活動計画の結果が明らかとなり、次のステップへとつながるGAPが目指すPDCAサイクルの取り組みが構築できると思われる。</li> <li>■効率的な事務局運営の方法を確立することは、農業者を支え伴走する人材を育て守ることにつながるので、持続可能な団体取得に向けて必要な取組だと思う。</li> <li>■島根県は有機農業にも力を入れていますが、GAP認証が推進した次のステップとして、有機農業への取り組み・有機認証への団体としての取り組みなど実践されるのでしょうか。</li> </ul>	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■地域での美味しませ認証の認知度向上及び理解促進を目的とした道の駅「ごいせ仁摩」「JA グリーンおおだ」での認証産品販売は、関係機関との連携での企画で、消費者にとってもGAP認証産品を知る機会になるので今後も継続して実施してほしい。</li> <li>■団体認証に参加する農業者を増やしていくための工夫についても、示されると良かったと思います。</li> <li>■実践する、農業者が更に取り組みやすいものとなるよう、ご指導いただきたい。</li> <li>■若い世代に(高校)に認知度向上の為の説明会を開いたことはとても良いと思う。</li> </ul>	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■団体構成員、普及対象の意識変化についての説明があると良かった。</li> <li>■今回の取り組みを生かし新しい団体認証を育成されることを期待する。</li> <li>■地域への波及効果については、スーパーなど店頭などでのPOPでのPRや学生を含む消費者へ行政やJAなどと連携して、テレビや新聞などのメディアを利用してもっと発信できると良い。</li> <li>■GAPは、農業者自らが実践する取組であり、自主的に問題を見つけ、解決方法を探り、実施する、能動的な取組です。本事例の団体認証によって、農業者の負担を減らしつつ、GAPに取り組むことによって、農業者の経営がより効率的に行われることを期待します。</li> <li>■成果の要因や残された課題が明確になっているが、発表にもあったが息の長い取組なので、継続しやすい環境を提案して頂きたい。</li> <li>■地域への波及効果が期待されるが、GAPへの理解がまだまだなされていない生産者、消費者が存在すると思われるので、更に頑張って頂きたい。</li> <li>■(地域で)マニュアル・評価を合わせたこと、集合しての内部監査は良い発想です。そうした取り組みをモデルケースとして是</li> </ul>	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■GAP活動の基本のPDCAサイクルが今後も継続され、より効率的となるよう期待する。</li> <li>■農業普及員の資質や活動の取り組みは評価できるので、GAP団体認証が更に広がることを期待している。</li> <li>■非常にわかりやすい発表と資料でした。</li> <li>■最近も耳にしたが、「美味しませ認証」の表示による有利販売ばかりが目立ちすぎて、GAPそのものの必要性や、なぜGAPが必要でGAPの取組がどのような過程を経て有利販売や経営改善に結びついていくかがぼやけているような感じがしました。そこら辺を、うまくこれから取り組むべき生産者に訴えて頂きたいと感じました。</li> </ul>	<p>上と安全安心なものづくりの意識醸成を図る。</p>
--	---	---	---	--	------------------------------

			非、県内全域へ波及頂きGAP 取得の機運を高められることを 願います		
--	--	--	--	--	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制■方法	普及指導活動の成果	その他	
江の川流域におけるたまねぎ産地の創生 (邑智農業部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域課題の河川氾濫を避けた園芸振興、新たな品目の模索は重要な課題設定である。また、県基本計画で推進する6品目とも合致する。</li> <li>■ 目的達成に向けて生産者を含む関係者一体となった推進組織を設立し、機能的な体制が構築できている。</li> <li>■ 目的達成に向けてポイントとなる課題が設定されている。</li> <li>■ 江の川流域では近年相次いで河川の氾濫が発生し、農産物への被害が生じている。そこで、水害に遭うリスクの低い作目の「タマネギ」に着目したこと。</li> <li>■ 定植から収穫まで機械作業による省力化は人手不足の中大切なポイントだと思いました。</li> <li>■ 地域としての取組みで新規就農への負担が軽減されるのは良いことだと思います。</li> <li>■ 生産できる作物ではなく、度重なる自然災害に対応できる作物を生産する、強い問題意識が生産計画の随所に見られ、実践的な取組みです。タマネギの生産を推進する上での課題も具体的かつ明確です。機械の視察や実演会も積極的に行っていてスキル向上の取組みも評価できます。</li> <li>■ 近年の気候的地形的災害リスクと、より高収益につながる品目をうまく選定し、マッチングさせている。</li> <li>■ 地形的な河川氾濫に伴う新たな産地づくりの取組み。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 担い手確保、機械装備の確保、育苗の体制構築について効果的、効率的に活動がなされている。</li> <li>■ 推進組織を核として、目標達成に向けそれぞれが密接に連携できている。</li> <li>■ JA、関係市町、生産者が参画して「島根おちタマネギ精算協議会」を設立し、推進に係る課題の抽出や課題解決のための具体的手法等について検討する場としたこと。</li> <li>■ 協議会の設立で課題解決などの議論されていることは良いなと感じました。作業と経費の軽減は◎</li> <li>■ 育苗体制の構築と機械の共同利用体制の構築は経費削減にもつながり良いと思います。</li> <li>■ 新たな機械のレンタル制度など、課題を推進するための取組みが生産者にとって負担が軽減されるものとなっています。生産性が向上する育苗体制が短期間で構築されています。</li> <li>■ それぞれの関係機関とうまく連携が取れているように感じた。</li> <li>■ 機械の共同利用(が評価できる)。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2年間で7経営体、約4ヘクタールまで栽培拡大できたことは、農業者の意向を反映しつつ、関係機関と連携し、課題を的確に解決できた成果と評価できる。</li> <li>■ (1)生産者数、作付面積の増加 (2)育苗体制の構築(3)機械の共同利用体制の構築(4)担い手の単収向上～それぞれの活動目標がJA、関係機関と連携して成果を挙げたこと。</li> <li>■ 取組みが始まって未だ2年ですが、既に単収が上昇するなど、成果が上がってきています。</li> <li>■ 生産者・関係機関が一体となって取り組んでいることがうかがえます。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去には無かった視点での作目推進、ゼロからの産地づくりは担い手づくり、推進体制づくり、栽培環境整備など貴重な経験ができ、かつ高い成果もあり普及員の資質向上に大きな効果をもたらしたと思われる。</li> <li>■ 普及指導対象の選定(着目)、成果目標、課題解決までがきちんと整理され活動がすすめられている。</li> <li>■ 1(イチ)からではなく、タイトルにあるように「ゼロから」の取組みの中で、成果を上げるために試行錯誤しながら問題解決に挑戦している点は、素晴らしいと思います。</li> <li>■ 河川氾濫の被害を受ける地域の生産者を応援する気持ちを感じた。</li> <li>■ あの手この手の努力が伺えます。</li> </ul>	

■最重要な地域課題へ対応された。

【改善が必要な点】

■タマネギは、全国各地で生産されています。したがって、既に市場では競争が激しいことが予想されます。あえて、タマネギを生産する理由として、自然災害に対応できる農作物以外の理由があると良いとおもいます。  
■明快な目標設定が成されていないように思えます。

【自由意見】

■地域の状況(江の川流域の水害が多いこと)や農業を取り巻く環境の変化に対応できる「タマネギ」に着目し、その推進を行う上での考えられるリスクを事前に分析して、それを1つずつ課題解決を図りながらすすめられたことを評価。  
■「ゼロから取り組む」とタイトルにあるように、ゼロからどのようにタマネギ産地を目指すことになったのかが、もう少し詳しく述べられていると、他の地域にとっても参考になると思います。  
■クリアしなくてはならない課題もあるが、普及するにあたって、普及拡大面積などが具体的に設定されると見えない部分がみえてくるのでは。

【改善が必要な点】

■JA 等関係機関との連携内容も、スライドや説明の中に必要に応じて示されていましたが、体系的に示されると、より分かりやすいと思います。

【自由意見】

■機械のレンタル制度に関しては、料金体系や借り手側の義務など、もう少し詳細に示されると良いと思います。  
■産地づくりが目標とうことで、小規模経営農家などにも気軽に安心して取り組める提案と体制づくりに期待したい。

【改善が必要な点】

■競争がすでに激しいタマネギの販路拡大の工夫について、説明があると良いと思います。  
■生産者が普及員からの支援を受けてどのように経営が変化したのかが、より詳細に説明がなされると良かったと思います。  
■農家の反応はどうか?取り組みに躊躇する向きがあれば、そこにメス入れることで産地化に繋げられるものと思います。

【自由意見】

■令和6年産の栽培面積が減少したが、栽培経営体の意見、その理由、背景、次年度への対応策についての解説が欲しかった。新たな担い手の掘り起こしに向けた推進活動では分析が十分でない。  
■「島根おちタマネギ生産協議会が推進母体となり、関係機関と生産者間で課題共有や意識統一ができる体制が構築されたことが評価できる。  
■水害対策としてスタートした取り組みは異常気象が多い現代では良いことだと思います。  
■これをもっと消費者へアピールしてブランディングして他の島根産の玉ねぎと違いを出すと良いなと感じました。「なぜこの地域で玉ねぎを作るようになったかをストーリーにして消費者へア

【改善が必要な点】

■課題3で取り上げられている「指導者側もスキルアップが必要」という点について、もう少し、詳細な説明があると良かったと思います。  
■産地化には、農業経営としての実態把握と組み立ての視点が不可欠に思います。

【自由意見】

■毎年のように江の川流域における河川の氾濫は地域の住民・農家にとっては大きなダメージで、また、「タマネギ」は消費者にとっては毎日の食事作りにいろいろ使える便利な野菜。今後、新たな「江の川タマネギ」の産地として、地域に明るさと元気をもたらしてほしい。  
■取り組み開始から、未だ2年です。より一層の販路拡大と生産者の収益向上に向けた取り組みを期待します。  
■更なる(普及指導員の資質)向上に期待して

○産地化を推進するため、具体的な目標販売額・面積等を掲げた「産地ビジョン」を策定し、将来の目指す姿を明確にして取り組んでいく。  
○生産費調査の他、経営体への聴取を行い、たまねぎ栽培の経済性と産地化に向けた課題を明確にしていく。  
○販売面においては、県東部の広域調製施設を基軸に、全県を挙げたロットの確保と年間を通した継続出荷により有利販売に繋げていく。

			<p>ピールしてみてもは。共感されればプラスになると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■規格外のタマネギの処理についての説明があると良いと思います。</li><li>■現在は、道半ばでたまねぎの栽培技術に対しての課題をクローズアップしたように感じたが、それに合わせて取組む生産農家の増加を更に目指して頂きたい。</li><li>■2年分しか資料がないので、分析するには難しかったのでは？</li></ul>	<p>おります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■昨年の課題解決に取り組む、今後の改善に期待したい。</li></ul>	
--	--	--	--	---	--



課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制■方法	普及指導活動の成果	その他	
新規就農者の確保育成によるアスパラガス産地の活性化 (出雲農業部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■県基本計画の水田園芸の推進、新規自営就農者の確保に沿った課題設定になっている。</li> <li>■産地課題の分析が的確で、将来を見据えた普及活動課題が設定されている。</li> <li>■関係機関との密接な連携の下、多様な活動が取り組まれ、明確な目標が設定されている。</li> <li>■定年帰農等で取り組む生産者が多く、高齢化が進んだことにより、生産者数の減少と販売額の停滞を打破するための、産地活性化を目指したこと</li> <li>■新規就農を増やし生産拡大の目標が明確だった。</li> <li>■地域が直面する問題をふまえ、新規就農者の確保によるアスパラガス生産拡大を具体的な目標値を設定している点は、実践的であると評価できます。</li> <li>■作成された就農パッケージが、新規就農を目指す者にとって具体性に富み、また、新規就農の支援内容やメリットだけでなく、就農者自身が負担すべき内容も踏み込んであるため、就農後のイメージがしやすくなっています。</li> <li>■産地化キーワードは明確であった。生産拡大までのプロセスも明確であった。目標設定も具体的であった。各関係間との連携も出来ていると感じた。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■産地の拡大、活性化に向けた支援の方向性が的確、効果的で高く評価できる。</li> <li>■行政、JAに加えて農業振興公社などとも連携が取れ、適切な役割分担ができています。</li> <li>■新規就農者受入体制の強化で、定住財団や農林大学校と連携し、UIターン者をターゲットにした施策で、就農者の若がりが増えたと感じました。</li> <li>■青年部の設置も更に評価できる。</li> <li>■経営モデルの見える化は新規就農のイメージがつきやすくなり良いと感じた。</li> <li>■産地ツアーやアグリスクールなど教育投資が◎</li> <li>■ビニールハウスのリース化は新規参画しやすくてよい。</li> <li>■パッキングセンターの機能強化による集中化は生産者負担軽減で効率的で良い。</li> <li>■収量向上マニュアルは生産者のレベルアップと収量アップにつながりとても良い。</li> <li>■技術支援だけでなく、販路拡大等、経営面への支援、就農者が孤立しないような青年部の設置などハード・ソフト両面においてきめ細かな支援がなされています。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■9つの普及活動が組み合わせられ、担い手確保、産地の拡大、所得向上について成果を出している。</li> <li>■新規就農者支援として青年部を組織できたことは、普及対象の大きな変化で評価できる。</li> <li>■現状を分析し、スマート農業の普及拡大、中核的担い手の育成拡大といった今後への課題設定が明確にされている。</li> <li>■出荷量及び販売額は新規就農者の増加とともに増加傾向。</li> <li>■収支モデルを作成し、就農希望者への提示することで、10年間に新規就農者14名、現在では、生産者の4割、栽培面積の5割が新規就農者(となったこと)。</li> <li>■新規就農者の増+栽培施設の拡大による収量・品質の向上はおおきに評価できる普及活動の成果だと思う。</li> <li>■環境モニタリング導入によるスマホを使ってのデータ活用はとても良い取り組みだと思う。</li> <li>■新規就農者の早期安定や数字で分析することにより誰でも分かるようになり能力の平準化が図れる。それがさらなる産地拡大につながっていくと感じた。</li> <li>■普及の成果を見ると、新規就農者の数、販売金額、1個当たり面積等いずれも向上しており、</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■産地の拡大、活性化に向けて、新たな担い手を確保し、生産規模拡大をリースハウス制度で実現、省力化、販路拡大にも取り組んだ多様な普及活動は担当者の高い資質と評価できる。</li> <li>■今後も増えるだろう定年帰農の人に加え、定住財団や農林大学校と連携してUIターン者の若い就農者を増やすことで、生産者の若返りと生産量が増えたこと。また、消費者に人気のアスパラガスに着目したこと。</li> <li>■本事例は、新規就農者を確保・育成しながら、地域内の高付加価値のアスパラガス生産性向上に大きく貢献していると思います。</li> <li>■様々な取り組みの成果として、何よりも産地を上向かされたことが大きいと考えます。特に、若手の参入の多さ。</li> </ul>	

	<p>■新規就農者を増やすための取り組み(が評価できる)。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■新規就農には3つの段階(①就農前、②就農直後、③就農定着)があり、それぞれの段階において技術面、経営面での支援がなされていくと思われま。新規就農者は、最終的に地域で経営が安定することが求められますが、本事例において、新規就農の各段階ごとに課題設定と計画が示されると、それに基づく実行と成果の評価・改善点がより一層、明確になると思われます。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■定年帰農が多いことと就農初心者にとって、比較的に作業負担が少ないのではないと思われる。また、消費者にとっては、少し価格が高いけれども人気があるアスパラガスに着目したことがよい。</p> <p>■単収と農業者の収益増大には相関関係があるとのことでしたが、その関係をもう少し詳しく示していただきたかったです。</p>	<p>■就農パッケージはわかりやすく、気をひくものであった。</p> <p>■ソフトからハードまで、細かな部分にも着目し、具現性のある内容だった。</p> <p>■パッキングセンターがあることで、製品の統一化が得られ良いと思う。</p> <p>■新規就農者にはリースハウス導入はとてもよいと思う。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■JA等関係諸機関との連携内容が、不明瞭でした。</p> <p>■役割分担について、出来ていると思いますが発表からは判りませんでした。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■定年帰農がこれから先も多いと思われるし、今の定年の人はまだまだ元気な人が多いので、若い就農者との交流の場があったりするのとお互い刺激にもなり良いのかもしれない。</p> <p>■新規就農者に対する支援がきめ細くなされてお。就農者にとって負担が大きく軽減され、心強いと思います。ただし、支援の内容がきめ細くなく</p>	<p>目標を達成しており、普及指導の成果が明確に出ています。</p> <p>■オンラインツアーなど、遠方からの参加(可能であることが評価できる)。</p> <p>■産地化成果に併せた、「みどりの食料システム戦略」への取り組み。</p> <p>【改善が必要な点】</p> <p>■新規就農者自体の経営改善の状況が示され、普及指導との相関が示されると良いと思います。</p> <p>■アグリビジネススクールの参加者は年代別だとどのくらいか?(が示されるとよりよい)</p> <p>■行われているであろうPDCAサイクルを盛り込まれることで、産地の活性化がより見えたと思います。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■今回の普及活動の目標達成はまだできてないが、間もなく到達すると思われ普及活動の成果を感じる。一方、栽培面積7.4haで68tの出荷量は、10a当たり単収が1000キロに至っておらず、個人出荷が3割あったとしても1200キロを超えない。栽培技術の刷新で目標単収を4tに設定し、中核的担い手を主体に収量の向上に取り組むことに併せて、単収の低い生産者の技</p>	<p>【改善が必要な点】</p> <p>■支援主体が支援のスキルをどのように向上しているかが、もう少し詳細に示されると良いと思います。</p> <p>■新規就農を志す農業者の意思決定を必要以上に介入することなく、主体性を尊重し引き出す工夫が示されると良いと思います。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■販路開拓で、令和3年から香港に輸出開始された。生協しまねの組合員の中には、地元産の物を食べて、地元の農家生産者を応援したいとの声があるので、島根産のアスパラガスをもっとPRしてほしい。期待しています。</p> <p>■アスパラの端材の有</p>	<p>○今後の普及活動では、新規就農者の確保を引き続き図るとともに、新規就農者の成長を促し、成長ステージに応じた支援を関係機関が連携・分担し実施する。</p> <p>○また、担い手・生産・販売対策について、より明確な数値目標を設定するとともに、産地ビジョンを見直し、産地の構造改革を更に強力的に推進する。</p>
--	---	---	---	--	--

		<p>りすぎると、新規就農者の経営者能力の向上の阻害といった問題が生じてしまうのではないかと懸念します。</p>	<p>術改善を進め、平均の収量を底上げすることが次の目標である2億円産地への達成に向けて重要に思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新規就農者の増加で、地元アスパラガスの生産量が増えることで、生産者、地域が元気になると良い。また、消費者にとっても、生産量が増えることで、地元産のアスパラガスが少しでも安価に買えると良い。</li> <li>■新規就農者に対する支援が開始されたH27以降で、実際に新規就農した後に、撤退した事例や、相談会には参加したけれども、就農に至らなかった事例があれば、その要因分析もあると良いと思います。</li> <li>■更に目標達成に向けて、指導活動をよろしく願います。</li> <li>■青年部が出来るほどの若返りに期待が持てる。</li> <li>■香港への輸出が、安定的な販売になるとの理屈付けがどうでしょう!?</li> </ul>	<p>効活用ができればと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■非常にわかりやすい発表と資料でした。</li> </ul>	
--	--	--	--	---	--